

## 2007 年度学術フロンティア推進事業による研究成果の概要

### The Outline of Research by the “Academic Frontier” Project in the 2007 Fiscal Year

立命館大学 歴史都市防災研究センター 副センター長

Vice-Director, Research Center for Disaster Mitigation  
of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

吉越 昭久

Secretary-General, Akihisa YOSHIKOSHI

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を  
自然災害から防御するための学理の構築」幹事長

#### 1. 研究の体系

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」(代表:土岐憲三)は、3 年目を終了した。このプロジェクトは、平成 15 年度に採択された同じく文部科学省の 21 世紀 COE プログラム「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」と密接な分野について、違った分野の研究者も加え、少し角度を変えながらさらに発展させるものである。本学には他に、びわこ・くさつキャンパスにハイテク・リサーチ・センター整備事業「防災と安全のための複合大規模センサシステムおよびロバストネットワークの構築」のプロジェクトが走っており、ともに本学の特徴ある防災研究を形成している。これらのプロジェクト、プログラムによって、衣笠キャンパスには「歴史都市防災研究センター」、びわこ・くさつキャンパスには「防災システムリサーチセンター」が建設され、前者は人文・社会科学と工学が融合する形で、後者は工学と情報科学が融合する形で、それぞれ外部の研究機関・研究者をメンバーに加えて、着実に研究を進めてきた。

#### 2. 研究プロジェクト

本学術フロンティア推進事業では、メンバーを①防災まち(地域)づくりプロジェクト、②文化遺産・芸術作品防災プロジェクト、③防災空間情報プロジェクトの 3 つに分けて、それぞれその大きなテーマに沿う形で共同研究・個人研究を進めている。2007 年度の成果については、この報告書に概要を掲載してあるのでここでは記述することは省略しておきたい。また、巻末には各メンバーの今年度における業績一覧を掲載しているので、参考にしていきたい。

#### 3. 今年度の企画(2. 研究プロジェクト 以外について)

##### (1)安全安心マップコンテスト

このコンテストは、京都市内の小学生に地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的にして企画されたものである。小学生と保護者が一緒に、地域の安全安心について調べ、その結果を一枚の地図に描いてもらった。なかなか興味ある地図も作成されている。今回は、初回ということもあって、応募数が少なかったことと、特定の学校に偏ったところがあったが、これらは来年度以降解決すべき課題である。

夏休みを利用して調査し、地図を作成してもらい、7月20日～9月28日の期間に応募を受け付けた。それを学内外の7名の審査委員で検討したうえで、10月28日に表彰式を行った。応募された全作品は、表彰式当日から12月25日まで、歴史都市防災研究センターの展示ルームで、展示された。通常、歴史都市防災研究センターは土曜日・日曜日には閉館しているが、この展示期間中は、市内の小学生にもみてもらうために、特別な体制をとって開館するという対応をした。次年度以降、この企画は継続し、地域の安心安全への関心を小学生のうちから高めていきたいと考えている。なお、ほとんどの応募作品は、歴史都市防災研究センターで保管している。

#### (2) 歴史都市防災研究センター展示ルームにおける企画展示

本年度は、4月から9月までは通常展示を行い、10月から3月末までは活断層に関する企画展示を行っている。その途中で、小学生の安全安心マップコンテストの全作品を展示することも加えた。

#### (3) 情報発信の整備(ホームページの充実)

本年度、歴史都市防災研究センターのホームページを充実させることを試みた。今回の特色は、研究成果などを公表することで、これまでの研究活動(研究会・シンポジウムなど)の記録、「京都歴史災害研究」の1号から7号までのデジタル化と公開などが、その主な事業であった。また、これまで技術的な問題で更新がしにくかったことを改め、できるだけ迅速に更新を行っている。センター所蔵の資料類のデータベース化はほぼ完成したので、近いうちに公開する予定である。

#### (4) シンポジウムの開催

12月22日に「第3回文化遺産防災シンポジウム 文化遺産の防災 ―ものと技術の防災をめぐって―」を開催した。学内外の専門家による6件の発表があった。他にも、関連するプロジェクトのシンポジウムなどに共催という形で開催することも行った。

#### (5) 外部との研究協力・共同研究

学術フロンティア推進事業では、学外の企業、行政などとの共同研究を進めており、その一部は公表された成果となっている。

### 4. 今後の研究計画

1つは、これまで継続してきた事業を行うことで、その具体的内容についてはこれまでの報告書に記載してきた通りである。

もう1つは、仮にこの事業に関連する新しいプログラムやプロジェクトが立ち上がった場合、そこと強く連携させていきたい。また、これまで継続してきた文化遺産防災シンポジウムは、内部の3つのプロジェクトごとに開催してきたが、一巡したために、来年度は、すこし違った視点から取り組んでみるつもりである。メンバーに多くの学外の研究者に加わってもらっているので、その人的資源を最大限に活用して、他ではみられない研究を展開していく予定である。